

体験から気付き得て

健幸マルシェ初開催

健康に関する気付きを得る体験型イベント「健幸マルシェ」が3月24日、生涯学習センターで開催され、約300人の来場者がさまざまな健康プログラムを体験しました。



①来場者を前に講演する真田さん
②ウォーキングを体験する来場者たち

このイベントは、「気付き、体験、出会い」をコンセプトに、ウォーキングや筋トレなどの体験を通して、「健幸」（健康で幸せ）に暮らすための気付きなどを得てもらおうと、市が初めて主催しました。ウォーキング教室では、アシックスジャパン株式会社 社の鈴木伸さんが講師を務め、歩くときの姿勢や注意点、正しい靴の履き方などを伝授しました。



ストレッチ体験をする来場者たち

また、立命館大学スポーツ健康科学部教授の真田樹義さんが、「歩いてのぼさう、健康寿命」をテーマに講演。真田さんは、筋肉量の低下やロコモにならないために、筋トレやウォーキングなどを日常の暮らしの中に取り入れることの大切



災害に備え防災訓練

くすのき地区・美濃山地区

阪神・淡路大震災から24年、東日本大震災から8年。震災の記憶を風化させず、いつ起きるかわからない災害に備えようと、3月3日にくすのき地区、10日に美濃山地区で防災訓練が行われました。

同訓練は、東南海・南海地震の発生を想定し、各地区自治連合会などが毎年主催。両地区あわせて約900人が参加しました。くすのき地区では、くすのき小学校、男山第二中学校の

2カ所で避難所設置訓練を実施。体育館に集まった参加者たちは、市職員に教わりながら段ボールベッドや、子どもの授乳やおむつ替えなどの用途に使用できるプライベートルームの組み立てなどを体験しました。美濃山地区では、心臓マッサージやAEDの取り扱い、起震車による最大震度7の体験などの訓練を実施。参加者たちは、消防署員や消防団員たちから指導を受けながら、熱心に訓練に取り組んでいました。



腰を掛けて段ボールベッドの強度を確認する参加者たち(くすのき地区)

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。



ハワイアン音楽を楽しむ来場者たち

憩いの場 親しまれ2年

オープン2周年を迎えたさくらであい館で3月23、24日の2日間、来場者への日ごろの感謝を込めた感謝祭が開催され、約2500人の来場者でにぎわいました。

同館は、淀川三川合流域の地域間交流、地域振興、周遊観光の拠点として国土交通省が整備し、平成29年3月25日にオープン。背割堤の来場者やサイクリストたちの憩いの場として親しまれています。

会場では、マルシェや竹細工ワークショップ、新・空中茶室「そら」で

のお茶席など、さまざまなプログラムを実施。23日のふれあいコンサートでは、フォークやハワイアン、二胡のグループなどが出演し、さまざまなジャンルの音楽で会場を盛り上げていました。

トライアスロン教室の子どもたちと吹田市から訪れた石橋剛さん(65)は「さくらであい館には毎週、来ています。サイクリングの目標地点だったり、待ち合わせ場所になったりしていいですね」と話していました。

さくらであい館で感謝祭

今月のこの人

大胆な作品作り意識



伊藤 泰三さん

プロフィール
市内在住のガラス作家。大学卒業後、北海道小樽市で15年間修行し、出身地である八幡市に工房を構える。市の市制施行40周年記念式典での記念品一写真一を手がける。



自分の感性を生かせる仕事に就きたいという思いから、ガラス作家になり、25年。遠心力や重力を利用しながら、できる限り、自然に任せて大胆に作ることを意識し、日々作品作りをされています。ガラス作品はサイズを調整しようとすると、小さな作品になってしまうそうです。独立後は、商品作りと自分の作品作りとの折り合いをつけなければならないなどの苦労はあったが、自由な時間に、好きなように制作できるのは良かったと振り返ります。ガラス作家をして良かったと思う瞬間について、「偶然生まれたガラスの表情と自分の気持ちが一致したとき」と話す伊藤さん。

間について、「偶然生まれたガラスの表情と自分の気持ちが一致したとき」と話す伊藤さん。

「うちの工房では、体験もしているし、八幡にまつわるものを作ることもできます。もっと八幡のまちを市内外の人に知ってもらいたい」と地元への思いも胸に、作品を生み出し続けています。

「今月のこの人」を開始しました。本コーナーでは、市にゆかりのある人物を紹介していきます。自薦・他薦問わず、紹介希望者を募集していますので、詳しくは、市ホームページをご覧ください。秘書広報課(☎983-1087)へお問合せください。